令和9年度
名古屋大学大学院情報学研究科

博士前期課程
数 理 情 報 学 専 攻
複 雑 系 科 学 専 攻
社 会 情 報 学 専 攻
心理・認知科学専攻
情報システム学専攻
知能システム学専攻

学生募集要項
（令和9年4月入学　2月実施）

名古屋大学大学院情報学研究科では2022年度からインターネット出願を導入しました。出願に必要なパソコンやプリンター等のデバイス，メールアドレス，顔写真データ，支払方法，提出書類等を確認してから出願してください。また出願前には，マイページを登録した後出願することになりますので，時間には余裕を持って出願してください。なお，登録されたメールアドレスには，大学から入学試験に関する重要なお知らせが配信されることがあります。メールアドレスは，変更や削除の可能性がなく，日常的に確認しやすいものを準備してください。

名古屋大学
大学院情報学研究科

自然災害により被災した入学志願者に係る検定料の特別措置について

名古屋大学では，自然災害等被災者の経済的負担を軽減し，受験生の進学機会の確保を図るため，入学試験の検定料免除の特別措置を実施いたします。

なお， 詳細は本学ホームページでご確認ください。

〇本学ホームページ

https://www.nagoya-u.ac.jp/admissions/exam/gs-exam/saigai/index.html

入学案内＞大学院入試

不測の事態が発生した場合の諸連絡

災害や感染症の流行等により，試験日程や選抜内容等に変更が生じる場合があります。試験日程の延期が難しい場合，中止の可能性もあります。変更が生じた場合は，下記ホームページ等により周知しますので，定期的にご確認ください。

〇情報学研究科ホームページ

https://www.i.nagoya-u.ac.jp/graduate-school-of-informatics/

安全保障輸出管理について

名古屋大学（東海国立大学機構）では，「外国為替及び外国貿易法」に基づく安全保障輸出管理制度により，「東海国立大学機構安全保障輸出管理規程」（以下「規程」という。）を定め，貨物の輸出，技術の提供（人の受入を含む）について厳格な審査を実施しております。規程に抵触する場合は，入学試験の選抜に合格しても入学が認められない又は入学後の研究活動等に制限がかかることがありますので，ご留意ください。詳細については，以下のウェブサイトを参照願います。なお，該当者には，個別に通知します。また，この場合も既納の検定料は返還しません。

https://www.aip.nagoya-u.ac.jp/securityexport-extramural

安全保障輸出管理の「みなし輸出」の改訂について

2021年11月「外国為替及び外国貿易法」（外為法）に基づく「みなし輸出」における管理対象の明確化に伴い，大学・研究機関における学生への機微技術の提供の一部が外為法の管理対象となりました。これに伴い，学生が本学に応募・出願の際，「類型該当判断のフローチャート」に基づく「類型該当性の自己申告書」の提出が必要となりますので，出願時に所定の様式により提出してください。また，合格時に「誓約書」の提出が必要となる場合があります。

インターネット出願の流れ

出願完了までの流れは、以下の通りです

STEP 1 事前準備 → STEP 2 出願サイトにアクセス → STEP 3 マイページの登録 → STEP 4 出願内容の登録 → STEP 5 入学検定料の支払い → STEP 6 必要書類の郵送 → STEP 7 出願完了 → 受験票の印刷

STEP 1 事前準備

インターネットに接続されたパソコン、プリンターなどを用意してください。
必要書類※は、発行まで時間を要する場合があります。早めに準備を始め、出願前には必ず手元にあるようにしておいてください。

※必要書類…顔写真データ、各種証明書（※詳細は各研究科学生募集要項参照）



STEP 2 インターネット出願サイトにアクセス

インターネット出願サイト ▶ **https://e-apply.jp/ds/nagoya-gs/**



STEP 3 マイページの登録

画面の手順に従って、必要事項を入力してマイページ登録を行ってください。
なお、マイページの登録がお済みの方は、STEP4に進んでください。



①初めて登録する方は **マイページ登録** からログインしてください。



②メールアドレスの登録を行って **仮登録メールを送信 >** をクリックしてください。



③ユーザー登録画面から **ログインページへ** をクリックしてください。



④登録したメールアドレスに初期パスワードと本登録用URLが届きます。

※@e-apply.jpのドメインからのメールを受信できるように設定してください。



⑤ログイン画面から登録したメールアドレスと④で届いた『初期パスワード』にて **ログイン** をクリックしてください。



⑥初期パスワードの変更を行ってください。



⑦表示された個人情報を入力して **次へ** をクリックしてください。



⑧個人情報を確認して **この内容で登録する** をクリックしてください。



⑨登録完了となります。
マイページへ を
クリックしてください。



⑩上記ページが表示されたら
マイページ登録は完了です。

※出願受付中の場合のみ、出願手続きを行う ボタンをクリックすると出願手続に進めます。
出願受付期間外の場合は、これより先に進めませんので ログアウト ボタンをクリックしてください。

STEP 4

出願内容の登録

画面の手順や留意事項を必ず確認して、画面に従って必要事項を入力してください。



①マイページログイン後の
出願手続きを行う ボタン
から登録画面へ



②研究科の選択



③入試区分と留意事項の確認



④出願専攻等の選択



⑤顔写真のアップロード
写真選択へ ボタンをクリックし
写真を選択します。



⑥個人情報（氏名・住所等）の
入力



⑦出願内容の確認
志願票（サンプル） ボタンを
クリックすると志願票、写真票、宛名シートが確認できます。

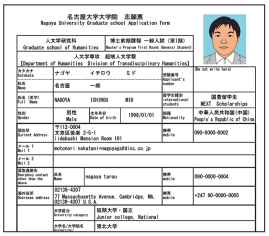


⑧申込登録完了
引き続き支払う ボタンを
クリックし検定料のお支払い画面へ。



お支払い期限は申込日を含め4日間です。ただし、Web出願締切がそれよりも早く到来する場合、Web出願締切が期限となります。

⑨入学検定料の支払い方法
●コンビニエンスストア
●ペイジー対応銀行ATM
●ネットバンキング ●クレジットカード



⑩出願に必要な書類PDF
（イメージ）
※検定料納入後に出力可能となります。

入学検定料の支払い方法で「コンビニエンスストア」または「ペイジー対応銀行ATM」を選択された方は、支払い方法の選択後に表示されるお支払いに必要な番号を下記メモ欄に控えたうえ、通知された「お支払い期限」内にコンビニエンスストアまたはペイジー対応銀行ATMにてお支払いください。

セブン-イレブンの場合

払込票番号メモ（13桁）	

デイリーヤマザキ、セイコーマートの場合

オンライン決済番号メモ（11桁）	

ローソン、ミニストップ、ファミリーマート、ペイジー対応銀行ATMの場合

お客様番号メモ（11桁）	
確認番号メモ（6桁）	
収納機関番号（5桁）	5 8 0 2 1

※収納機関番号は、ペイジーでお支払いの際に必要となります。

申込登録完了後に確認メールが送信されます。メールを受信制限している場合は、送信元（@e-apply.jp）からのメール受信を許可してください。　※確認メールが迷惑フォルダなどに振り分けられる場合がありますので、注意してください。

入学検定料支払い後は、登録内容の修正・変更ができませんので、入学検定料支払い前に必ず登録内容を確認し、誤りがあれば、再度登録してください。

※「入学検定料の支払い方法」でクレジットカードを選択した場合は、出願登録と同時に支払いが完了しますので注意してください。

STEP 5

入学検定料の支払い

お支払い期限は申込日を含め4日間です。
ただし、Web出願締切がそれよりも早く到来する場合、Web出願締切が期限となります。

1 クレジットカードでの支払い

出願内容の登録時に選択し、支払いができます。

【ご利用可能なクレジットカード】
VISA、Master、JCB、AMERICAN EXPRESS、MUFGカード、DCカード、UFJカード、NICOSカード

出願登録時に支払い完了

2 ネットバンキングでの支払い

出願内容の登録後、ご利用画面からそのまま各金融機関のページへ遷移しますので、画面の指示に従って操作し、お支払いください。

※決済する口座がネットバンキング契約されていることが必要です

Webで手続き完了

3 コンビニエンスストアでの支払い

出願内容の登録後に表示されるお支払いに必要な番号を控えて、コンビニエンスストアでお支払いください。

●レジで支払い可能

セブン-イレブン
デイリーヤマザキ
セイコーマート

●店頭端末を利用して支払い可能

Loppi
ローソン
ミニストップ
マルチコピー機
ファミリーマート

4 ペイジー対応銀行ATMでの支払い

出願内容の登録後に表示されるお支払いに必要な番号を控えて、ペイジー対応銀行ATMにて画面の指示に従って操作のうえお支払いください。

※利用可能な銀行は「支払い方法選択」画面で確認してください。

各コンビニ端末画面・ATMの画面表示に従って必要な情報を入力し、内容を確認してから入学検定料を支払ってください。

3 コンビニエンスストア

セブン-イレブン

店頭レジ
↓
レジで「インターネット代金支払い」と伝える
↓
「払込票番号（13桁）」を伝える
↓
レジで検定料を現金で支払う※
↓
領収書（レシート形式）を必ず受け取る

デイリーヤマザキ ヤマザキデイリーストアー

店頭レジ
↓
レジで「オンライン決済」と伝える
↓
「オンライン決済番号（11桁）」を伝える
↓
レジで検定料を現金で支払う※
↓
領収書（レシート形式）を必ず受け取る

ローソン ミニストップ

Loppi
↓
「各種番号をお持ちの方」を選択
↓
「お客様番号（11桁）」入力
↓
「マルチペイメントサービス」を選択
↓
「確認番号（6桁）」入力
↓
支払い内容確認
↓
発券された申込券（受付票）をレジへ持参し、検定料を現金で支払う※
申込券（受付票）発行後は30分以内にレジにて支払ってください。
↓
払込受領証または受領書（レシート形式）を必ず受け取る

ファミリーマート

マルチコピー機
↓
「代金支払い/チャージ（コンビニでお支払い Payment/Charge）」を選択
↓
「お客様番号（11桁）」入力
↓
「確認番号（6桁）」入力
↓
支払い内容確認
↓
発券された申込券（受付票）をレジへ持参し、検定料を現金で支払う※
申込券（受付票）発行後は30分以内にレジにて支払ってください。
↓
払込受領証または受領書（レシート形式）を必ず受け取る

セイコーマート

店頭レジ
↓
レジで「インターネット代金支払い」と伝える
↓
「オンライン決済番号（11桁）」を伝える
↓
レジで検定料を現金で支払う※
↓
領収書（レシート形式）を必ず受け取る

4 銀行ATM

Pay-easy 利用ATM

ペイジー対応銀行ATM
↓
「税金・料金払い込み」などを選択
↓
収納機関番号「58021」を入力
↓
「お客様番号（11桁）」入力
↓
「確認番号（6桁）」入力
↓
支払い内容確認
↓
「現金」「キャッシュカード」を選択し支払う※
↓
ご利用明細書を必ず受け取る

※ゆうちょ銀行・銀行ATMを利用する場合、現金で10万円を超える場合はキャッシュカードで支払ってください。コンビニエンスストアを利用の場合は現金で30万円までの支払いとなります。

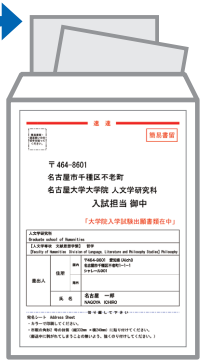
STEP 6

必要書類の印刷と郵送

出願登録、入学検定料の支払後にダウンロードできる書類を全て**カラー印刷**し、その他の必要書類と併せて出願期間内に郵便局窓口から**「簡易書留・速達郵便」**で郵送してください。

出願に必要な書類　⚠ 募集要項を必ず確認してください

- ●インターネット出願サイトから印刷する書類　志願票　写真票
- ●本学研究科のホームページからダウンロードし、作成する書類　履歴書など
- ●出身大学等に発行を依頼する証明書　証明書



出願書類提出用宛名シート
市販の角形2号封筒（24㎝×33.2㎝）に貼り付けて作成



出願書類の郵送先は宛名シートに自動で印字されます。

■出願書類

1回の出願登録につき各1部必要です。出願に必要な書類は学生募集要項を参照してください。

※一旦受理した入学検定料・必要書類は学生募集要項で明記しているものを除き一切返却しません。

〈出願完了〉

出願時の注意点

出願はインターネット出願サイトでの登録完了後、入学検定料を支払い、必要書類を郵送して完了となります。インターネットでの登録が完了しても出願書類の提出期限に書類が届かなければ出願を受理できませんので注意してください。
それぞれの期限は各研究科の学生募集要項を参照してください。

インターネット出願は24時間可能です。必要書類の郵送は各募集要項で定められた時間内に行ってください。ゆとりを持った出願を心がけてください。

STEP 7

受験票の印刷

出願を受け付けた後、受験票の印刷が可能になりましたら、出願時に登録されたメールアドレスへ通知します。メールが届かない場合でも、試験前日までにインターネット出願サイトにログインし、各自でA4用紙にカラー片面印刷をして試験当日に持参してください。





※学生募集要項に記載の時間はいずれも日本標準時として記載してあります。

令和９年度　名古屋大学大学院情報学研究科
博士前期課程学生募集要項

令和9年度に本研究科博士前期課程（修士課程として取り扱う課程）に入学を志願する学生を以下により募集する。

1. 出　願　資　格

次の各号のいずれかに該当する者

(1) 日本の大学を卒業した者及び令和9年3月31日までに卒業見込みの者

(2) 学校教育法第104条第7項の規定により学士の学位を授与された者及び令和9年3月31日までに授与される見込みの者

(3) 外国において学校教育における16年の課程を修了した者及び令和9年3月31日までに修了見込みの者

(4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより，当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者及び令和9年3月31日までに修了見込みの者

(5) 我が国において，外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって，文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者及び令和9年3月31日までに修了見込みの者

(6) 専修学校の専門課程（修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者及び令和9年3月31日までに修了見込みの者

(7) 文部科学大臣の指定した者（昭和28年文部省告示第5号）

(8) 令和9年3月31日までに大学に3年以上在学し，又は外国において学校教育における15年の課程若しくは我が国において外国の大学の課程（その修了者が学校教育における15年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって，文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し，本研究科において，所定の単位を優れた成績をもって修得したものと認めた者

(注) 出願資格(8)により出願する者は，16頁の「出願資格(8)により出願する者について」を参照すること。

(9) 本研究科において，個別の入学資格審査により，大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で，令和9年3月31日までに22歳に達する者

(注) 出願資格 (1)～(8)及び(10)に該当しない者のうち，出願資格(9)により出願する者は，17頁の「出願資格(9)により出願する者について」を参照すること。

(10) 外国の大学その他の外国の学校（その教育研究活動等の総合的な状況について，当該外国の政府又は関係機関の認証を受けた者による評価を受けたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が別に指定するものに限る。）において，修業年限が3年以上である課程を修了することにより，学士の学位に相当する学位を授与された者及び令和9年3月31日までに授与される見込みの者

2. 募　集　人　員

数理情報学専攻	若干名
複雑系科学専攻	若干名
社会情報学専攻	若干名
心理・認知科学専攻	若干名
情報システム学専攻	若干名
知能システム学専攻	若干名

3. 願書受付期間

令和8年12月16日（水）から令和8年12月22日（火）16時まで（郵送必着，郵送のみ受付）

※インターネット出願サイトでの出願登録及び入学検定料支払期間は，願書受付開始日２週間前から願書受付最終日の前営業日まで**（令和8年12月2日～令和8年12月21日）である**が，この期間に関わらず，郵便事情等を十分考慮のうえ，願書受付期間に出願書類が到着するよう日数に余裕をもって出願すること。

不測の事態に備え，出願書類は可能な限り願書受付期間最終日の前営業日（12月21日）までに到着するようにすること。

4. 出願手続き

出願手続きは，入学検定料払込期間内にインターネット出願サイト（3頁参照）で出願登録及び入学検定料の支払いを行った後，出願書類を願書受付期間内に到着するように郵送することにより完了する。インターネット出願での出願登録及び入学検定料の支払いを行っただけでは，完了にはならないため，留意すること。

インターネット出願サイトでは，「日本語」を選択し，出願ページに進むこと。（「English」のページからは出願登録ができません）

なお，入学検定料の支払い期限は，出願登録日を含め4日間であり，支払い期限内に入金がない場合は，出願登録は自動的にキャンセルとなる。キャンセルとなったときは再登録すること。

※払込締切日までの日数が4日より短い場合は，払込締切日が優先される。

注意事項

(1) 出願書類は，インターネット出願サイトにより出願登録後に印刷可能となる「出願用宛名用紙」をカラーで出力し，角形２号の封筒に貼りつけて，情報学研究科教務学生係に送付すること。

詳細については，6頁「STEP ６　（必要書類の印刷と郵送）」を確認すること。

(2) 出願書類は，簡易書留・速達郵便で送付すること。日本国外から送る場合は，出願書類が願書受付期間より前に到着してもよいが，願書受付期間最終日までに到着するように，配達記録が残る方法で送付すること。出願書類の持参及び電子メールでの出願はできない。

(3) 出願書類に不備のある場合は，受け付けないので留意すること。

(4) 出願手続き後は，書類の変更，差替，返却は受け付けないので留意すること。

(5) 出願書類の到着確認の問い合わせには応じられない。追跡確認可能な簡易書留・速達郵便で送付すること。

5. 入学検定料の払込方法

(1) 入学検定料　３０，０００円

入学検定料のほかに支払手数料が必要となる。手数料の額は，支払手続き画面に表示される。

国費外国人留学生として入学する予定の者は，入学検定料不要のため，インターネット出願サイトの出願時に「検定料の免除について」で「該当する」をチェックすること。

なお，本来入学検定料を支払うべき者が，誤って「検定料の免除について」において，「該

当する」を選択し，入学検定料を支払いせず出願した場合の書類は受理しないので注意すること。

(2) **払込期間**

願書受付開始日２週間前～願書受付最終日前営業日まで（令和8年12月2日（水）～令和8年12月21日（月））

※入学検定料を支払い済みでも，願書受付期間内に出願書類が到着しなかった場合は，出願は受け付けないため留意すること。

(3) 払込方法

入学検定料の支払いは，5頁「STEP ５ （入学検定料の支払い）」を参照のうえ，行うこと。

日本国外在住者は，クレジットカードで払い込むこと。

(4) 入学検定料の返還について

出願書類を受理した後は，納入済みの入学検定料は返還しない。ただし，以下に該当する場合は，納入された入学検定料を返還する。なお，返還にかかる振込手数料は差し引く。

ア 入学検定料納入後，出願しなかった場合又は出願が受理されなかった場合

イ 入学検定料を二重に払い込んだ場合

※入学検定料の返還は銀行振込で行われる。日本国以外の銀行の口座に返還する場合には，返還される金額は大きく減額される他，返還に多大な日数を要するため，入学検定料の納入は慎重に行うこと。

6. 出 願 書 類

インターネット出願サイトから印刷するものに加え，本募集要項の様式をダウンロードし，A4判用紙に片面印刷のうえ記入すること。（本募集要項の様式については，ダウンロードした様式に編集ソフト等で入力したものも使用可）

(1)全員が提出する書類

1) 名古屋大学大学院　志願票及び写真票 計2枚（インターネット出願サイトからA4サイズで片面カラー印刷したもの）

出願前3か月以内に撮影した正面向き，上半身，無帽，背景なしの顔写真データ（2MBまで）を用意し，インターネット出願サイトからアップロードすること。顔写真データは、受験時に本人と 照合を行うので、画像に加工や修正をしないこと。本人と確認できない場合は、受験を続けることができない場合があるので注意すること。

2) 志願理由書（本募集要項の【様式1】に記入したもの）

3) 履歴書（本募集要項の【様式2】に記入したもの）

2027年3月までの予定を含み，空白期間がないよう記入すること。所属先がなく自宅で勉強している（していた）場合についても，もれなく記入すること。

4) 卒業（見込）証明書，学位（取得見込）証明書又は出願資格を証明する書類（コピーは不可）

すでに大学を卒業した者は，「学士」の学位を取得したことがわかる証明書を提出すること。外国の大学を卒業した者は，大学又は公証所等が発行した証明書（日本語あるいは英語で書かれていない場合は，英訳版を添付）を提出すること。（但し、CHSI中国高等教育学生信息網は不可）

5) 成績証明書（最終出身大学作成のもの）（コピーは不可）

外国の大学を卒業した者は，大学又は公証所等が発行した証明書（日本語あるいは英語で書かれていない場合は，英訳版を添付）を提出すること。（但し、CHSI中国高等教育学生信息網は不可）

6) 英語外部試験の成績通知書

英語筆記試験は行わないので，英語外部試験：TOEIC L&R公開テスト，TOEFL-iBT，IELTSまたはDuolingo English Testの成績通知書を必ず提出すること。成績通知書は，2024年4月1日以降受験分を有効とする。「TOEFL-iBT Home Edition」も有効とする。

詳細は，10頁の「7．英語外部試験の成績通知書について」を参照すること。

7）オンライン口述試験・口頭試問に関する誓約書（本募集要項の【別紙1】に記入したもの。対面で実施予定の場合も，オンラインによる試験の実施の可能性に備え，全員提出すること。）

8）類型該当性の自己申告書（本募集要項の【別紙2】に記入したもの）
全員提出すること。類型①～③に該当する場合はその根拠を記載し，海外機関の奨学金の受給通知等も提出すること。

9）その他卒業論文等，本人の研究能力を示す資料がある場合には，それらを１部（コピーでよい）及び必要に応じてその概要を１部提出することが望ましい。A4用紙に印刷して提出すること。

⑵該当者のみ提出する書類

1）日本在住の外国人の出願者は，在留カードのコピー（両面），市区町村長の発行する住民票の写しまたは住民票記載事項証明書のいずれか提出すること(いずれも在留資格を確認できるものであること。住民票コード通知書は不可)。
また，現在日本国外に在住している外国人の出願者は，国籍を確認できるもの（例えばパスポートの国籍が記載されている顔写真のある頁のコピー）を提出すること。出願書類等には，これらの証明書に記載された氏名を用いること。

2）官公庁，会社，団体等に在職中で入学後も引き続き在職する者は，受験承認書を提出すること（様式は随意）。入学後退職する予定の場合は，その旨記した申出書を提出すること（様式は随意）。

3）外国人留学生で日本語能力試験を受験したことがある者は，合格証又は成績通知書のコピーを提出すること。コピーしたものを提出する場合は，「これは原本の複写に相違ありません」と記入し，署名又は押印すること。

4）現在国費留学生である者はその証明書（在学している大学発行のもの）を提出すること。ただし，学内からの出願者は提出不要。

7．英語外部試験の成績通知書について

英語外部試験の成績通知書（コピーの提出可。ただしコピーを提出する場合は自筆にて「これは原本の複写に相違ありません」と記入し，署名又は押印すること。）又はデジタル公式認定証/公式サイトに示されたスコア等を紙に印刷したもの（自筆にて「これはデジタル公式認定証/公式サイトに示されたスコア等の写しに相違ありません」と記入し，署名又は押印すること。）
出願期間とは別に後日提出することができる。最終提出期限は，令和9年1月18日（月）16時（必着）とし，それ以降は受け付けない。提出の際は，情報学研究科教務学生係あてに簡易書留郵便で送付すること。

なお，一度提出した成績通知書の返却や差し替えはできない。また，提出期限までに提出（到着）しなかった場合は，英語は欠席として取り扱う。

8．受験票の印刷について

試験1週間前までに，受験票の印刷が可能となった旨電子メールで通知する。 電子メールに記載されている注意事項に従い，インターネット出願サイトにログインして受験票をA4用紙に片面印刷すること。詳細については，6頁「STEP 7 （受験票の印刷）」を確認すること。

なお，試験上の連絡事項がある場合は，出願時に登録した電子メールアドレスに送付するため，定期的に確認すること。

（注1）インターネット出願登録した際の受付番号は，受験番号ではない。試験当日は受付番号での受験はできないため必ず受験票を持参すること。

（注2）試験当日にスマートフォン等での画面表示による受験票の提示は認めない。

9. 選　抜　方　法

9.1 筆記試験における英語外部試験成績の採用

本研究科では，英語外部試験: TOEIC L&R公開テスト，TOEFL-iBT，IELTS，Duolingo English Testの成績を英語の成績とする。研究科入試の英語筆記試験は実施しない。

変換の目安は，以下の表のとおりである。以下の表は，The Educational Testing Network Serviceのホームページにある変換表などを参考に作成したものである。

TOEIC L&R	TOEFL-iBT	IELTS	Duolingo	変換後の成績
580	61	5	80	59
649	69	5.5	95	66
729	79	6	105	74
807	90	6.5	120	82
867	100	7	130	88
956	109	7.5	140	97
986	111	8-9	150	100

9.2 選抜方法の詳細

(1)　入学者の選抜は，専門及び口頭試問の成績並びにその他提出された書類による総合評価で行う。

(2)　専門及び口頭試問は次の日程により行う。対面の場合の試験場は，当日，全学教育棟本館北棟（名古屋大学東山地区試験会場案内図参照）１階玄関に掲示する。

(3)　専門及び口頭試問の開始時間と実施方法は，専攻により異なる。

オンラインで実施する場合は，自己の責任において，ビデオ通話が可能な機器（カメラ付きパソコン，タブレット，スマートフォン等）を用意するとともに，良好かつ安定的なインターネット環境を確保すること。

災害や感染症の流行等により，実施方法を変更する場合があるので，研究科ホームページ等を定期的に確認すること。

また，実施方法等の詳細は，研究科ホームページや電子メール等により連絡する。

(4)　**口述試験及び口頭試問については，原則として遅刻は認めない。**

9.3 試験概要

(1) 専門　令和9年2月9日（火）

専攻名	開始時間 試験方法	出題範囲
数理情報学専攻	13:30～ 口述試験 オンライン	数学，数理情報又は志望する分野の基礎
複雑系科学専攻	9:30～ 口述試験 対面（オンラインに変更す	一人30分程度で以下の形式により行う。 (1)卒業研究の内容についての発表（10分程度） 受験者は卒業研究またはそれに代わるものなど，学部時代に行った研究内容，および大学院入学後に行いたい具体的な研究テーマ

	る場合がある）	についてパワーポイント等を用いて発表する。発表に用いるPCはHDMI出力があるものを受験者が持参すること。 (2)質疑応答（20分程度） 上記で発表した内容について，質疑により受験者の研究能力およびそれを裏付ける学力を問う。また本専攻を受験する目的や大学院での希望研究テーマなどの質疑により，受験者のコミュニケーション能力や勉学意欲を評価する。
社会情報学専攻	9:30～ 口述試験 対面 （受験生多数の場合，口述試験を2月10日にも実施する場合がある。）	一人30分程度で以下の形式により行う。 (1)卒業研究の内容についての発表（10分程度） 受験者は卒業研究，セミナーなど学部時代に力を注いだ学習内容，および，大学院入学後に行いたい具体的な研究テーマについて発表する。 (2)質疑応答（20分程度） 受験者の在籍（又は出身）学部を考慮して，受験者の基礎学力を問うための試験を質疑応答形式で行う。また上記で発表した内容を裏付ける基礎知識も問う。さらに，本専攻を受験する目的や大学院での希望研究テーマなどの質疑により受験者のコミュニケーション能力や勉学意欲を評価する。
心理・認知科学専攻	13:30～ 口述試験 対面（オンラインに変更する場合がある）	一人30分程度で以下の形式により行う。 (1)卒業研究またはこれまでの研究，および今後の計画についての発表（10分程度） 受験者は卒業研究または力を注いだ学修内容，及び，大学院入学後に行いたい具体的な研究テーマについて発表する。 (2)質疑応答（20分程度） 受験者の在籍（又は出身）学部を考慮して，受験者の基礎学力を問うための試験を質疑応答形式で行う。また上記で発表した内容を裏付ける基礎知識も問う。さらに，本専攻を受験する目的や大学院での希望研究テーマなどの質疑により受験者のコミュニケーション能力や勉学意欲を評価する。
情報システム学専攻	13:30～ 口述試験 対面	一人30分程度で以下の形式により行う。 (1)情報システム（情報理論，プログラミング，離散数学，オートマトン・形式言語，アルゴリズム，論理学，論理設計，計算機アーキテクチャ，オペレーティングシステム，コンパイラ，情報ネットワーク，ソフトウェア設計論）に関する口述試験を行う。上記12科目の中から出題される6問の課題から，受験者が2問を選んで解答する。 (2)これまでの研究内容（卒業研究など）についての口頭試問 ・卒業研究を履修していない場合は学部で履修したセミナーの内容，また，卒業研究，セミナーのいずれも履修していない場合は本研究科で希望する研究の内容で代えることができる。 ・これまでの研究内容（卒業研究など）の概要（A4判１頁程度）を用意すること。

知能システム学専攻	開始時間は後日通知する。 口述試験 対面	一人30分程度で以下の形式により行う。 (1)解析・線形代数，確率・統計の2科目に関する口述試験 (2)これまでの研究内容（卒業研究など）を含む一般的な項目についての口頭試問 ・卒業研究を履修していない場合は学部で履修したセミナーの内容で，また，卒業研究，セミナーのいずれも履修していない場合は本研究科で希望する研究の内容で代えることができる。 ・これまでの研究内容（卒業研究など）の概要（A4判１頁程度）を用意すること。

(2)口頭試問

専攻名	試験時間
数理情報学専攻	2月9日（火）の口述試験の中で実施
複雑系科学専攻	2月9日（火）の口述試験の中で実施
社会情報学専攻	2月9日（火）の口述試験の中で実施 （受験者多数の場合，2月10日にも分けて実施）
心理・認知科学専攻	2月9日（火）の口述試験の中で実施
情報システム学専攻	2月9日（火）の口述試験の中で実施
知能システム学専攻	2月9日（火）の口述試験の中で実施

※情報システム学専攻および知能システム学専攻の口述試験および口頭試問について，日本語で実施する。ただし，英語での解答は認める。専攻が指定する時間までに集合すること。集合時間に遅刻した場合は，原則として受験を認めない。

10. 合　格　発　表

令和9年2月16日（火）12時頃に情報学研究科棟玄関に掲示する。

また，掲示発表後，本研究科ホームページにおいても発表する。

合格者には「合格通知書」を郵送する。「合格通知書」をもって，正式な通知とする。

出願後に住所が変更になる場合は，必ず情報学研究科教務学生係に電子メールにより連絡すること。

11. 入　学　手　続

入学手続については，令和9年3月上旬に出願時に登録した住所へ郵送により本人に通知する。手続日は，令和9年3月中旬の予定である。

出願後に住所が変更になる場合は，必ず情報学研究科教務学生係に電子メールにより連絡すること。

12. 入学料及び授業料

(1) 入学料　282,000円

ただし，国費外国人留学生は，入学料を要しない。

(2) 授業料　春学期分　267,900円（年額535,800円）

ただし，国費外国人留学生は，授業料を要しない。

（注1）入学料は入学手続き時に納入する。授業料は，春学期及び秋学期に分けて，春学期にあっては5月，秋学期にあっては11月に納入する。

（注2）入学時及び在学中に学生納付金額の改定が行われた場合には，改正時から新たな納付金額が適用される。

13. 日本語を母語としない志願者へ

出願書類を英語で書いてもよい。

14. そ の 他

(1) 出願資格，出願書類及び選抜方法等本研究科入学試験に関して不明な点は，あらかじめ問い合わせること。

(2) 障害等があって試験場での特別な配慮を必要とする者にあっては，令和8年12月1日（火）までに，以下3点を添えて，その旨を情報学研究科教務学生係へ申し出ること。

1) 受験上の配慮申請書（障害の状況，受験上配慮を希望する事項とその理由等を記載したもの，様式随意，A4サイズ）
2) 障害等の状況が記載された医師の診断書，障害者手帳等（写しでもよい）。
3) 障害等の状況を知っている第三者の添え書（専門家や出身学校関係者などの所見や意見書）。
4) 適宜それ以外の書類を添付しても構わない。

なお，入学後の修学に関して相談の希望がある者も令和8年12月1日（火）までに申し出ること。

(3) 名古屋大学においては，構内への車両の入構規制を実施しているので，受験の際は，公共交通機関を利用すること。

(4) 不合格者のうち希望する者については，科目ごとの試験成績を次の要領により受験者本人に開示することができる。

申 請 期 間：令和9年2月16日（火）から3月1日(月)10時から16時（土日祝日を除く）

申し込み方法：本研究科所定の「入学試験開示願」の様式により申し込むこと。様式の送付を希望する者は，情報学研究科教務学生係へ申し出ること。

(5) 住所・氏名・生年月日その他の個人情報は，入学選抜，合格発表，入学手続き及びこれらに付随する事項にのみ利用する。また取得した個人情報は適切に管理し，利用目的以外には利用しない。

(6) 本研究科では，長期履修学生制度を定めている。長期履修学生制度とは，職業を有している等の事情により時間的制約があり，標準修業年限では修了が困難な学生に対して，標準修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し，学位取得することを認める制度である。詳細は，以下のHP及び入学手続き通知を参照。

https://www.nagoya-u.ac.jp/academics/curriculum/long_term/index.html

(7) 卓越大学院プログラムについて：卓越大学院プログラムは，文部科学省が2018年に導入した5年一貫の博士課程プログラムである。大学院生が研究と多様な能力の開発に打ち込めるようにするため，特別な経済的支援が用意され，さらに，TAやRAを通して指導能力を学び，追加の収入が得られるような仕組みが用意されている。情報学研究科では，以下のプログラムに参画している。

各プログラムへの参加申込は，当該プログラムHPなどで詳細を確認の上，各自で行うこと。

・情報・生命医科学コンボリューション on グローカルアライアンス卓越大学院（CIBoG）

情報システム学専攻および知能システム学専攻は2019年度より本プログラムに参画している。詳細は以下のHPを参照。

https://cibog.med.nagoya-u.ac.jp/

・ライフスタイル革命のための超学際移動イノベーション人材養成学位プログラム（TMI）

すべての専攻が2020年度より本プログラムに参画している。詳細は以下のHPを参照。

https://www.tmi.mirai.nagoya-u.ac.jp/

(8) 災害や感染症の流行等により，試験の一部又は全部をオンラインで実施する可能性がある。その場合，ホームページでの通知，電子メールでの連絡を行う。ホームページ

（https://www.i.nagoya-u.ac.jp/ ）を定期的に確認するとともに，出願書類には，連絡を取ることができる電子メールアドレス等を必ず記載すること。

※不測の事態が発生した場合の諸連絡
災害や感染症の流行等により，試験日程や選抜内容等に変更が生じた場合は，ホームページ（https://www.i.nagoya-u.ac.jp/ ）により周知するので，定期的に確認すること。

【インターネット出願サイトの操作に関するお問い合わせ先】
「学び・教育」出願・申込サービス サポートセンター
（運用会社：株式会社ディスコ）
TEL：0120-202079
E-Mail：cvs-web@disc.co.jp
受付時間：平日10：00～17：00

【入試に関するお問い合わせ先】
〒464-8601　名古屋市千種区不老町
名古屋大学大学院情報学研究科教務学生係
TEL 052-789-4721・4722
https://www.i.nagoya-u.ac.jp/
E-mail: admission@i.nagoya-u.ac.jp
受付時間：平日8：30～12:00, 13:00～17：00
※問い合わせの際は，受験番号，氏名，希望する課程及び専攻を明記すること。

Student Affairs Section
Graduate School of Informatics
Nagoya University
Furo-cho, Chikusa-ku
NAGOYA 464-8601, JAPAN

出願資格（8）により出願する者について

１．出 願 資 格

令和9年3月31日までに大学に3年以上在学し，又は外国において学校教育における 15年の課程若しくは我が国において外国の大学の課程（その修了者が学校教育における 15 年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって，文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し，本研究科において，所定の単位を優れた成績をもって修得したものと認めた者

２．資 格 審 査

2.1 提出書類

出願資格（8）により出願する者は，次の書類を令和8年12月1日（火）16時（必着）までに，情報学研究科教務学生係へ郵送（簡易書留郵便で封筒の表に「前期課程事前審査申請」と朱書）し，出願資格の有無についての資格の事前審査を願い出ること。

(1) 事前審査申請書（【様式3】に本人が記入したもの）
(2) 履歴書（【様式2】に本人が記入したもの）
(3) 学業成績証明書（在籍大学において，学部2年までのもの）
(4) 在籍大学の指導教員の推薦書（様式自由，日本語又は英語）
(5) 410円の切手（速達料を含む）を貼付した住所及び氏名明記の返信用封筒（長形3号）

2.2 審査結果の通知

本研究科で資格審査を実施し，その結果は令和8年12月15日（火）までに本人宛通知する。

３．試 験 と 提 出 書 類

3.1 一次選考

提出書類：資格審査の結果，「出願資格あり」と判定された者は，募集要項の「6.出願書類」に記載の書類を出願時に提出する。ただし，全員が提出する書類にある「3）履歴書」「4）卒業証明書等」「5）成績証明書」の提出は不要である。

合格条件：通常の大学院試験において，通常の受験生と同一の問題，同一手続きによる筆記試験及び口頭試問において非常に優秀な成績を修めること。

3.2 二次選考

提出書類：入学する年の3月5日（土日に重なる時はその前日）までに 3年次の成績証明書を提出する。

合格条件：以下の二つの条件を満足すること。一次選考で合格しても二次選考の条件を満たさなければ入学を認めない。

(1) 3年次終了までに卒業必要単位の4分の3以上を取得していること。
（随意科目は含まない）
(2) 3年次終了までに取得した科目の8割以上において成績が優以上（あるいはＡ以上）であること。
（随意科目，合否のみで判定する科目等は優の比率の計算の基数に含めない）

出願資格（9）により出願する者について

1．出 願 資 格

本研究科において，個別の入学資格審査により，大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で，令和9年3月31日までに22歳に達する者

本研究科が「大学を卒業した者と同等以上の学力があると認める者」は，以下の２つのいずれかの要件を満たす者を想定している。

(1) 学術論文，著書，研究発表，特許，作品等により，卒業論文と同等以上の価値があると認められる研究業績を有する者

(2) 技術職や教育職などの専門的職業に就き，成果を挙げている者

2．資 格 審 査

2.1 提出書類

出願資格（９）により出願する者は，次の書類を令和8年12月1日（火）16 時（必着）までに，情報学研究科教務学生係へ郵送（簡易書留郵便で封筒の表に「前期課程個別審査申請」と朱書）し，出願資格の有無についての資格の個別審査を願い出ること。

(1) 個別審査申請書（【様式4】に本人が記入したもの）
(2) 履歴書（【様式2】に本人が記入したもの）
(3) 個別審査シート（【様式5】に本人が記入したもの）
(4) 卒業証明書（最終学歴の教育機関のもの）
(5) 成績証明書（最終学歴の教育機関のもの）
(6) (該当する場合は)業績として学術論文，著書，研究発表，特許，作品等の写し
(7) (該当する場合は)研究職／専門職従事証明書（【様式6】に所属の長等が証明したもの）
(8) 410 円の切手（速達料を含む）を貼付した住所及び氏名明記の返信用封筒（長形3号）

2.2 審査結果の通知

本研究科で資格審査を実施し，その結果は令和8年12月15日（火）までに本人宛通知する。

3．出 願 書 類

資格審査の結果，「出願資格あり」と判定された者は，募集要項の「6.出願書類」に記載の書類を出願時に提出する。ただし，全員が提出する書類にある「3）履歴書」「4)卒業証明書等」「5)成績証明書」の提出は不要である。

名古屋大学大学院情報学研究科

●研究科の基本理念

情報革命は二つの側面を併せ持っている。第一にそれは人類の抱える問題とその解決をより複雑なものにした。人類が直面する問題は，自然・人間・社会・人工物が絡まり合うことで生み出されてきた。これに膨大な情報が加わることで，問題はさらに複雑さと困難さを増した。第二に，情報革命は問題解決手段の大幅な拡充をもたらしている。自然・人間・社会・人工物は「情報の流れ」として統合的に理解することができ，情報科学技術は，その緩やかな統御を通じて，人類が直面する複雑かつ困難な課題に新たな解決方法を与える可能性をもつ。さらに情報革命は，既存の問題の解決手段に留まらず，新しい価値創造のための手段も与えてくれる。

こうした情報科学技術の潜在的可能性を十分に開花させ，問題解決と新たな価値創造を実現するために，本研究科では，分野横断的な知恵としての新しい「情報学」の創造を目指している。自然・人間・社会・人工物を，情報の流れを創出するシステムとして統一的に理解することを目指す。そして，その理解に基づき，新しい情報の流れを総体としてデザインし，狭義の情報処理技術のみならず，法・規範や制度・組織・意思決定までを含む「広い意味での情報システム」を構想・実現することで，人類の生存と幸福に寄与する。

●研究科の教育

情報革命の進展にともなって，情報処理手法を活用することにより膨大なデータを分析して新規性と価値のある情報を取り出す方法論の開発がアカデミックな優位性を保つためにきわめて重要になっている。さらに，自然・人間・社会・人工物にわたる現象を情報処理過程と捉えてモデル化する見方や，さらには膨大なデータそのものをモデルの代わりとする見方がさまざまな分野に取り込まれ，情報という枠組みを共通言語とすることで分野間の融合が進みつつある。

また，我が国の産業は，情報科学技術を活用した社会イノベーションの創造や業務革新においては，他国に遅れをとっている。そこで，情報科学技術に関する最新の知識に加えて，自然・人間・社会等の実世界についての深い理解をもつ人材が求められている。そして，情報科学技術と実世界を繋いで，価値創造をデザインするとともに，それを実世界で実現していく人材が求められている。

そこで，情報学研究科の博士前期課程では次のような 3 つの資質を備えた高度情報職業人の養成を目指す。

1) データ・サイエンス，数理科学，複雑系科学の手法を駆使し，シミュレーションを通して自然や社会などの実世界を情報学の視点から統一的に理解し，問題解決に結びつけることができる。
2) 人間の意思決定プロセスの理解に基づき， 情報社会における組織や制度の設計等を通して，情報科学技術を価値創造に結びつけることができる。
3) 最新の情報科学技術の知識と人間・社会に関する理解を通して情報社会の安全性，快適性の向上に資する知能情報システムを創造できる。

●アドミッションポリシー

(1) 入学者受入れの方針

情報学研究科は，情報学の新しい地平を開拓できる人材のみならず，情報学を駆使して，新しい価値の創造，課題の発見と解決，情報社会の基盤的仕組みの構想・設計などを先導できる人材，あるいは，企業や政府機関・国際機関等の組織を情報の観点からマネジメントできる人材，情報学を用いて科学の諸分野で活躍できる研究者を養成することを目標としています。そのため，このような人材養成の基盤となる次のような資質を持った多様なバックグラウンドを持つ学生を，幅広く対象として入学者選抜します。

1)高度な情報学の知識とスキルを身につけるために必要な，情報学ないし関連諸科学の十分な学力とスキルを有していること。

2)情報の観点から世界を理解し，情報技術を駆使して諸科学を革新しようとする意欲を有し，そのための基礎的研鑽を十分に積んできていること。

3)社会の抱える問題と未来の社会像について問題意識をもち，情報学を用いて問題を解決し価値を創造しようとする意欲を有し，そのための基礎的研鑽を十分に積んできていること。

4)社会と調和し，社会に価値をもたらす情報技術を創造しようとする意欲を有し，そのための基礎的研鑽を十分に積んできていること。

5)情報学の研究及び実践を通じて社会において先導的役割を果たすのに必要な，責任感，発想力，コミュニケーション能力を有していること。

(2) 選抜の基本方針

情報学研究科が求める上述の 5 つの資質のうち，1）と 5）は情報学研究科の全ての学生に求められる基礎的な資質です。それ以外の 3 つの項目は，情報学研究科の 6 つの専攻のいずれかに深く関わっています。2）は数理情報学専攻と複雑系科学専攻，3）は社会情報学専攻と心理・認知科学専攻，4）は情報システム学専攻と知能システム学専攻に入学を希望する者に主として求められる資質です。これらの資質を備える多様な人材を国内外を問わず幅広く求めており，各専攻において，入学者受入れの方針に基づき，提出書類（英語外部試験成績を含む），筆記試験，口頭試問等により，総合的に判断して選抜します。

●学位

本研究科の博士前期課程において，所定の修了要件を満たした者に対しては，修士（情報学）又は，修士（学術）の学位が授与される。

●専攻の概要

数理情報学専攻，複雑系科学専攻，社会情報学専攻，心理・認知科学専攻，情報システム学専攻，知能システム学専攻の 6 つの専攻により構成される。

1) 数理情報学専攻

自然現象や社会現象を解明するためのデータ・アナリティックスと情報数理モデルに関する知識や能力に重点を置いて教育を行う。

近年のインターネットの整備， 携帯端末の普及，計算機性能の向上など，情報技術の急速な発展により，大量の情報が我々の社会の至るところにあふれている。それらから意味のある情報を抽出して解析し，それに基づく意思決定を行うために数理清報学は有効な理論と方法を与える。

数理情報学専攻では，情報学の基礎を支える数理科学の研究・教育を行う。その実現のためには，広く自然や社会等の実世界における現象をデータ分析から情報学的に理解し数理モデルを構築することが重要である。このモデル構築作業を基に情報に関連する基礎数理を解明し展開することで，本専攻では情報学を深く豊かに発展させてゆく。そしてこれを通じて，数理科学的方法を身につけて情報学の応用と発展に中心的役割を担う研究者・高度情報技術者を養成する。

2) 複雑系科学専攻

データを問題解決に結びつけるシミュレーションやデータ・サイエンス，デザイン等に関する知識や能力に重点を置いて教育を行う。

自然や社会における複雑系は，情報を伝達・変換・蓄積する能力を持つ，多数の分子，ニューロン，生物・人間個体などの要素（エージェント）からなるネットワークとして構成されており，“情報流動”を創造する分散型情報システムとみなすことができる。その大きな特徴は，要素間の相互作用を通して，要素単独の性質からは予期できないような秩序構造や高次機能を動的かつ自律的に生み出す自己組織化にある。複雑系科学専攻では，こうした構造や機能の自己組織化過程を“情報流動”のダイナミクスに基づく“情報処理”過程とみなすことにより，理論・実験・計算の革新的方法を開発適用して普遍的な視座を構築し，情報流動の原理を明らかにするとともに実践的な知を生み出すことを目指す。

そのために多岐にわたる自然・人間・社会・人工物など実世界の複雑系現象を対象に，個別の革新的方法の開発手法とそれらの総合的な適用手法に加えて，従来の要素還元的方法ではない，モデル系を「つくることによって理解する」構成論的方法を教育する。こうして， 実世界の現象をシミュレーションとデータ・サイエンスの視点から理解するとともに，情報流動の原理を新しい分散型情報システムの設計へと応用し，革新的・総合的思考や構成論的思考による新しい発想に基づいて知識や技術を創造できる優れた技術者と研究者を養成する。

3) 社会情報学専攻

社会情報学専攻では，新たな科学的知見の獲得や技術的イノベーションとそれらの市民への提供，社会規範や制度の設計・構築，さらには芸術に見られる新たな価値創造とその社会への定着などに関する原理的研究を行う。 その基盤の上で，ICT の利活用による様々な規模におけるコミュニティの活性化と科学技術コミュニケーションの質的向上，さらにはソーシャル・メディアを含む情報の産出・流通・消

費のグランドデザインを構築する。とりわけメディア環境のグローバル化， マス・メディアとソーシャル・メディアとの相違と相互影響という視点からの新たな人間観・社会観・価値観に基づくメディア・社会・文化の構築を進める。

これらについて研究を行うとともに 以上の研究を基礎とした教育，また中部地方を中心とする国内外の自治体や報道機関・主要企業との間で培ってきた研究・教育や社会連携を通して，高度な倫理・規範意識と専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した人間力を培い，技術と社会のよりよい関係の構築に貢献する人材を育成する。

4)心理・認知科学専攻

人間や社会の問題に関わる認知・心理的情報処理に関する知識や能力に重点を置いて教育を行う。

心理・認知科学専攻では，知・情・意などの人間の心の働きを，心理実験，社会調査，脳活動測定，コンピュータ・シミュレーション等の手法を用いて明らかにする。ハードウェアとしての「脳」， ソフトウェアとしての「認知情報処理」，インタフェースとしての「身体」，さらには人間が作り出す環境としての「社会」との結びつきなど， 多様な観点から人間の心の働きを理解するとともに，人と人，人と人工物， 人と環境の間の相互作用やコミュニケーションのメカニズム，プロセスを解明する。

それらの人間の心に関する深い理解に基づいて，システム，環境，サービス，社会等の各領域に表出する諸問題を解決し，新たな価値を創造するためのコンセプト・方法，例えば，人間の特性に関する深い科学的理解に基づく VR（仮想現実感）システム，AR（複合現実感）システムやその他自動化システムの設計，学習支援の開発，デザインや情報伝達媒介の提案，幸福な高齢社会への提案，公正な社会の構築などを遂行できる人材を育成する。さらに，その成果を芸術，医療，教育，人工知能，社会科学諸領域など，様々な学問領域と結びつけることにより，心理学，認知科学，人間科学，および関連する他分野の創発的発展に寄与できる人材も育成する。

5)情報システム学専攻

情報システムを創造するための情報科学技術とセキュリティに関する知識や能力に重点を置いて教育を行う。

情報システム学専攻では，社会における利便性，安全性，快適性の向上を実現する情報科学技術の創造を目的とした情報システムの教育・研究を行い，効率的で信頼できる情報システムの設計・開発のための情報基盤プラットフォームおよびソフトウェアに対する理論と技術の基盤を確立する情報システム学の新たな発展を目指す。さらに，高信頼アルゴリズムや高度な計算モデルに対する研究に基づいたより高い効率と信頼性を実現する理論と技術の創造によって，情報システムの継続的な進化を探究する。ネットワーク接続により時間的・空間的に教会のない巧緻な次世代情報システムの設計と開発に適用できる情報システム学の教育研究を通じて，システム構築において指導的な役割を担える高度情報技術者及び情報システム学の発展を担える研究者を養成する。

6)知能システム学専攻

知能システムを創造するための実世界のデータ化と解析，人間と情報システムとのインタフェースに関する知識や能力に重点を置いて教育を行う。

情報システムを社会課題の解決に活用するためには，実世界，すなわち自然，人工物，社会活動から情

報を取り出し，人間にとって意味ある形式としで情報を処理することが不可欠である。情報システムを新たな価値の創造に活用するためには，処理した情報を実世界に働きかけ，その結果をさらなる情報として取り出す循環が必要である。

知能システム学専攻では,このような情報の取得，富化と循環を実現するために必要な理論と技術を，人間の知性・感性・身体と情報システムとにまたがった領域において探求するとともに，それらを探求する人材を養成する。 具体的には，(1)知能システム学の基礎となる理論と技術として，画像・映像処理，音声・音響処理，行動信号処理，自然言語処理，応用人工知能， 応用データ・サイエンスなどについて，また，(2) 知能を処理するシステムを設計するための理論と技術として，知的ユーザインタフェース，人間支援技術，データアナリティクスなどについて，さらに，(3)様々なフィールドにおける知能システム学の社会実装のための理論と技術として，医療情報，法・歴史情報，教育情報などの応用技術について，それぞれ探求する。

数理情報学専攻　教員と研究内容

下に入学後に指導を受けることのできる教員とその研究内容を示します。下表の「教員」欄の教員名を希望の強い順に志願理由書の該当欄に記入してください。試験に合格した場合でも，教育上の配慮により，志望する教員の指導が受けられないことがあるので，必ず出願前に志望教員に電子メールなどで問い合わせてください。

なお，※を付した教員は令和 9 年 2 月入試では学生を募集しません。

電子メールアドレス及び研究内容の詳細は

https://www.i.nagoya-u.ac.jp/prof/mathematical/　を参照してください。

講座	担当教員	研　究　内　容
数理情報基礎論	教授　吉信　康夫	公理的集合論，巨大基数公理，一般位相空間論
	教授　小野　廣隆 ※	アルゴリズム理論，数理計画法，グラフ理論，パラメータ化アルゴリズム，近似解法，ゲーム理論
	准教授 佐藤　潤也 ※	数論，類数公式，L-関数，岩澤理論，Bernoulli数
数理情報モデル論	教授　柳浦　睦憲	組合せ最適化，数理計画法，メタヒューリスティクス，近似解法，スケジューリング
	教授　西村　治道	量子計算，計算量理論
	教授　ブシェーミ　フランチェスコ ※	量子情報，量子測定，量子エンタングルメント，量子基礎論
	助教　加藤 晃太郎 ※	量子情報理論，量子多体物理，量子誤り訂正，テンソルネットワーク，トポロジカル量子計算

複雑系科学専攻　教員と研究内容

入学後に指導を受けることのできる複雑系科学専攻に所属する教員とその研究内容を下に示します。複雑系科学専攻への入学を希望する者は，志望する教員名を志願理由書の該当欄に記入してください（第３志望までは必須。第５志望まで記入可）。志望教員は同じ講座に所属していなくても構いません。配属先は原則として，入試成績，志望理由書の記載内容及び志望教員の受入れ条件を考慮して決定します。

また，志望する教員が今回募集を行わない場合もありますので，必ず出願前に少なくとも第１志望先の教員に電子メール等で問い合わせてください。メールアドレスは教員名下のアルファベットに続けて　@i.nagoya-u.ac.jp です。なお，以下の表に*を付した教員は教養教育院所属です。

講座	担当教員	研　究　内　容
多自由度システム情報論	教授　谷村省吾 tanimura	古典力学及び量子力学の数学的研究を行っている。代数的量子論，量子古典対応，情報熱力学，物理学への微分幾何学と圏論の応用などを研究している。また，科学的思考の数学的基礎の研究も行っている。
	教授　時田恵一郎 tokita	生態系，代謝反応，遺伝子ネットワーク，脳，情報通信・情報処理システム，流通システム，社会ゲームなどの，多様で複雑な相互作用をもつ大規模多種・生物・社会ネットワークのダイナミクスや進化の問題を，統計力学やシミュレーションを用いて理論的に研究している。
	教授　中村泰之* ynakamura	統計物理学を背景としながら，オンラインテストのデータを中心とした学習データの解析（ラーニング・アナリティクス）の土台の上に，「学習」を複雑系の対象の一つとして，その数理的理解を目指している。関連してeラーニングシステムの開発も行う。
	助教　増川　理恵 maskawa	微生物生態系を対象に、データ駆動的研究を行っている。情報科学的アプローチにより、複雑な生態系データに潜む構造や動態の特徴を定量的に記述する方法論を開発し、多様な時間スケールにわたる動態原理をモデル化やシミュレーションを通じて明らかにすることを目指している。
生命情報論	教授　太田元規 mota	構造バイオインフォマティクスの研究を行っています。具体的なテーマは，計算機を使ったタンパク質の運動，機能や相互作用の研究，形をとらない天然変性タンパク質の研究，などです。分子シミュレーションやデータベース構築も実施しています。
	教授　山西芳裕 yamanishi	生命科学や医薬学のビッグデータを情報解析するバイオインフォマティクスやケモインフォマティクスの研究を行っています。また，人工知能による創薬，精密医療，再生医療にも取り組んでいます。
	准教授　青木摂之 aoki	私たちのラボでは，微生物や植物を用いて，「生物リズム」の分子機構とその進化について研究を進めています。主に分子生物学的な手法で解析を行っています。
	講師　塚本眞幸 tsukamoto	有機化学を基盤に，生体関連化合物や高分子化合物の合成研究を行っています。具体的には，有用な生理活性を持つヌクレオシドやヌクレオチド，ポリイミドなどの化合物を扱っています。
	助教　小池亮太郎 rkoike	バイオインフォマティクス，計算構造生物学，生物物理学に関する研究を行っている。現在の主なテーマは，タンパク質間のインタラクションと，それにともなうタンパク質のレスポンスの解析。また，それらの記述・可視化ツールの開発やデータベースの構築なども行っている。

物質情報論	教授　吉田紀生 yoshida	溶液内で起こる化学・生物過程を対象とした，理論化学・計算化学の研究を行っています。特に，溶液の働きに着目して，液体の統計力学理論，量子化学手法，分子シミュレーション，情報科学手法を組み合わせた独自の方法の開発に取り組んでいます。
	教授　東　雅大 higashi	物質の情報を解析する理論化学・計算化学的アプローチにより，凝縮系における複雑な化学反応や物性の機構解明を目指して研究を行っています。特に，光励起状態が関わる反応や物性の機構解明に取り組み，そのための新規高精度解析手法の開発も行っています。
	准教授　堤　拓朗 t.tsutsumi	計算化学や情報科学の手法を活用し，化学現象がなぜ，どのように生じるのかを明らかにすることを目指しています。数理科学的手法を活用した化学反応解析理論の開発と，特に高分子化学をターゲットにしたマテリアルズインフォマティクスに取り組んでいます。
	助教 松本健太郎 kmatsumoto	量子化学計算や分子動力学法などの計算化学的アプローチを用いて，溶液などの凝縮系における化学反応ダイナミクスの研究を行っています。具体例として，錯体触媒による高分子合成反応に対し，触媒メカニズムの理論解析や重合反応過程のシミュレーションを行い，ミクロな視点からの反応過程の解明に取り組んでいます。
創発 **システム論**	教授　北　栄輔 kita	社会，経済，人工物等における現象の数理モデル化とシミュレーション，ロボットや Web サービス，逆問題などへの応用。[キーワード:ITS，群ロボット，ベイジアンネットワーク，文法進化，人工市場，計算力学，構造デザイン，Web サービス，データマイニング]
	教授　鈴木麗璽 reiji	生物集団，人間社会，人工物等に生じる創発的な振る舞いに対して，人工生命手法を用いた構成論的アプローチによる理解とその応用を目指している。現在は，進化・学習・ニッチ構築間の共進化，協調行動・コミュニケーションの進化等について生成 AI 等も活用しつつ研究している。
	准教授　永峰康一郎 nagamine	呼気中アセトンに着目した簡便なダイエット指標の開発，特定の元素に関する地球化学図の濃度分布と地名の分布との関連性の検討など，自然・社会に存在する幅広い情報から有益な関係を見出すことをテーマとして研究を行っています。
複雑系 **計算論**	教授　張　賀東 zhang	マルチスケール計算手法および高精度な計測・センシング技術を確立し，計算と実験の両面から新規材料・デバイスの創成に取り組み，自動車のエネルギー効率向上や，情報記録装置の大容量化，データや ICT を活用した次世代ヘルスケアの実現などへの寄与を目指している。
	教授　松田圭悟 matsuda	エネルギーや物質循環といったシステムを対象にミクロからマクロまでのプロセスの設計を目指して，熱力学や非線形科学などに基づく数理/統計モデルを用いた研究・開発をおこなっています。
	准教授　鈴木泰博 ysuzuki	情報学。とくに，情報による意味・秩序の生成を目指した，情報の表現・変換技術の探究を行う。
	助教 宋　玉璽 song	情報学と工学を融合させた新しいセンシング法を開発します。コンピュータビジョン，機械学習，信号処理，や光学などの統合的なアプローチを確立し，従来のセンシング法の物理的限界を打破し，今まで観察困難な世界の現象の解明に取り組んでいます。
情報 **可視化論**	准教授　安田耕二 yasudak	人工知能による化学知識の学習と獲得知識を用いた分子の自動生成，超並列計算機を用いた科学技術計算のアルゴリズムやプログラム，分子や固体の新しい量子化学理論の開発。[ニュートラルネット，グラフ理論，GPU，CUDA，密度行列，グリーン関数]。

社会情報学専攻 教員と研究内容

希望の講座を下の表から選び，志願理由書の該当欄に，その講座名を記入してください。第１希望から第３希望まで記入することができます（第１希望は必須です）。
なお，入学試験に関する注意や入学後の研究教育に関する相談のため，**志望講座の中で指導を希望する教員には，必ず，出願前のできるだけ早い段階で電子メールなどで問い合わせてください。第 2・第 3 志望の講座名を志願理由書に記入する場合は、第 2・第 3 志望の講座の希望教員にも必ず出願前に連絡を取ってください。事前の問い合わせは入学試験受験にとって重要な役割を持ちますので必ず行ってください。**各教員のメールアドレスについては，次の URL
（https://www.i.nagoya-u.ac.jp/prof/study_a04/）から確認すること。
ただし，配属される講座は，入学試験成績や各講座の受け入れ条件によって決定されます。

講座	担当教員	研　究　内　容
情報哲学	教授　秋庭史典	技術の産物が人や社会と協働しながら多様性を維持する方法を明らかにし，その成果を情報社会のなかで生かすことを目指している。そのために， ●美学と情報学を協働させ， ●人工物がコミュニケーションを誘発するのはどんなときかを調査している。
	准教授　久木田水生	記号を用いたコミュニケーションにおける意味の創発。広い意味での情報技術（ここには言語や記号システム，科学理論なども含まれる）と，人間の認識や社会構造の間の相互作用，特に近年はロボット工学に関する哲学的倫理的問題に焦点を当てて研究・考察している。 ●ロボット倫理学 ●数学の哲学，論理学の哲学
	准教授　笠木雅史	哲学的知見を活用しつつ，広い意味での人間の知的活動がどのような意味で，どのようなときに適切なのかを研究している。また，近年の科学技術（情報技術，AI・ロボット技術）の進歩により，人間の知的活動の環境も，より多様かつ複雑になっている。これらの技術の発達が引き起こす哲学的・倫理的問題にも関心を持っている。 ●分析哲学（特に認識論，メタ哲学），実験哲学 ●ロボット哲学・倫理学
	准教授　新美倫子	遺跡出土の動物骨や貝殻から過去の人々の食生活や狩猟・漁労等の生産活動を復元するなど，環境考古学的な研究を行っている。 出土動植物遺体の年代測定や植物質食料の資源利用モデルなどを利用し，新しい切り口を目指している。 ●動物考古学の手法を用いた食生活の復元，生産活動の研究 ●先史時代以来の人間による環境への適応と破壊に関する研究
情報社会設計論	教授　浦田真由	地域・観光・教育等のコミュニティにおける社会的課題を対象に，ウェブやソーシャルメディア等を活用した社会システム設計およびその有効性の評価に関する研究を行っている。 ●自治体オープンデータの推進 ●地域コミュニティにおけるソーシャルメディアの活用 ●教育・観光コミュニティを支援するICT利活用
	准教授　遠藤　守	教育・産業・行政等，各分野への可視化や情報ネットワーク技術の適用を研究課題とし，これに基づくシステム開発とその実践的活用に関する応用研究を進めている。 ●オープンデータ／オープンガバメント推進 ●データビジュアライゼーションとデータサイエンス ●情報基盤技術の開発と実社会での応用
グローバルメディア論	教授　山本　竜大	政治過程や選挙と（マス・）メディアの関係，技術の影響を検討している。研究アプローチは多様であるが，実証的な事象の説明，解明を意識しながら，以下の領域における研究に取り組んでいる。 ●現代の選挙キャンペーンにおけるメディアの利用法，メッセージ分析 ●政治過程に関連するメディア・コンテンツの分析 ●情報コミュニケーションと関連政策，（新しい権利など）諸問題の関係分析

グローバル メディア論	教授　勝間田　弘	国際社会の動向に関心を向けている。メディアが報道する国際政治・経済の問題に、社会科学の分析視角からアプローチしている。 ● メディアが報道する国際政治・経済の問題に対する理解 ● 社会科学の理論や分析概念をつかった分析 ● とくに国際関係論の理論や分析概念をつかった分析
	准教授　井原伸浩	アジア諸国によるメディア・情報関連政策の決定過程や，そうした政策の国内政治・外交への影響について，歴史的・現代的諸問題を研究している。 ●国家間シグナルの研究 ●パブリック・ディプロマシー ●いわゆるフェイクニュースをめぐるプラットフォーム・ガバナンス

心理・認知科学専攻　教員と研究内容

以下に入学後に指導を受けることのできる教員とその研究内容を示します。
志願理由書の該当欄に志望教員名を記入してください。第５希望まで書くことが出来ます。志願者は指導を希望する教員に出願前に連絡してください。
連絡先は本学 Web サイトの教員一覧(https://www.i.nagoya-u.ac.jp/prof/study_a05/)を参照してください。
なお，※を付した教員は学生を募集しません。

講座	担当教員	研　究　内　容
認知科学	教授　　川合伸幸 准教授　孟憲巍 助教　　宮本健史	認知科学・計算機科学・言語科学などの手法と知見を基礎とし，情報の理解と表出並びに記憶や思考における知識表現とその理解と遂行に関する問題を中心に，情報処理の観点から広く人間の認知活動に関わる精神活動の解明を目指す。研究内容のキーワード：〇科学的発見・創造/洞察過程・問題解決・学習科学・学習支援システム・モビリティ・自動車運転支援 〇学習・記憶・進化・発達・比較認知・感情（恐怖・怒り）・仮想現実・脳波・NIRS 〇協力性・コミュニケーション・人間関係・乳幼児・情報伝達・ステレオタイプ 〇眼球運動・視覚認知・予測・意思決定・感覚運動制御・心理物理・行動モデリング・デコーディング
	客員教授 小林哲生†	認知科学・発達科学などの手法と知見を基礎とし，乳幼児における言語・認知・感情などの発達プロセスの解明とその応用を目指す。研究内容のキーワード: 言語習得・認知発達・社会的認知・言語訓練支援システム
心理学	教授　　大平英樹 ※	生理心理学，神経イメージング，精神神経免疫学，感情と認知，ストレス
	教授　　田邊宏樹	社会脳科学（社会的相互作用，特に二者間コミュニケーションの神経メカニズム研究），認知神経科学・生理心理学（ヒト脳イメージングや脳波を用いた脳機能ダイナミクス研究），計算解剖学の手法を用いた古神経学・認知考古学
	准教授　北神慎司	目撃証言，視覚シンボル（ピクトグラム），認知心理学，教育工学
	准教授　平井真洋	発達認知神経科学（例：赤ちゃん，子ども，自閉スペクトラム症，ウィリアムス症候群児者などを対象とした脳波，眼球運動，生体信号，動作・行動計測），身体的認知（例：他者視点取得，バイオロジカルモーション，他者行為推定など），社会的認知における遺伝-環境要因の解明，認知多様性
	准教授　磯村朋子	生理心理学，発達心理学，社会的認知，身体的認知，社会相互作用，生体計測
	講師　　髙野了太	社会心理学，感情，認知神経科学，実験社会科学，計算社会科学などの研究領域を幅広く扱う。具体的には，感情と社会性，自己超越感情（畏敬），社会的認知，社会的相互作用（ナラティブ，人と人，人と AI）などをテーマとする。

†: NTT 研究所所属

情報システム学専攻　教員と研究内容

下に入学後に指導を受けることのできる教員とその研究内容を示します。

入学後に所属を希望する研究グループの**英数字コード（５Ａ～５Ｊ）**を，希望の強い順に第 1 希望から第 10 希望まで，志願理由書の該当欄に記入してください。**すべての欄を埋める必要はありませんが，第１希望は必ず記入してください。**配属先は原則として，入試成績，志願理由書の記載内容及び研究グループの受入れ条件を考慮して決定します。また，研究テーマは指導教員と相談の上で決定します。**すべての志願者は必ず出願前に第１志望に記載する研究グループの教員に電子メール等で連絡してください。**出願前の連絡は入学試験受験にとって極めて重要ですので必ず行ってください。受入れ条件などにより、志望理由書の該当欄に記載された研究グループに配属できない場合があります。連絡先は本学 Web サイトの教員一覧(https://www.i.nagoya-u.ac.jp/prof/study_a06/)を参照してください。

講座	研究グループコード	担当教員	研　究　内　容
計算論	５Ａ	教授　西田直樹 特任助教　小嶋美咲***	● 書換え理論とプログラム変換の応用 ● 書換え型計算モデルの構築と解析 ● 計算モデルへのプログラム変換の開発と実装 ● 書換え理論を利用したプログラム検証技術の実現
	５Ｂ	教授　番原睦則 准教授　宋　剛秀	● 知識表現および推論 ● 命題論理の充足可能性判定（SAT） ● 解集合プログラミング ● 制約プログラミング
情報プラットフォーム論	５Ｃ	教授　高田広章** 准教授　松原　豊 特任准教授　渡辺陽介** 特任准教授　李　奕驍*	● 組込み/IoT システム（特に自動車や宇宙機）の設計・開発技術 ● システムソフトウェア（リアルタイム OS，仮想化，通信ミドルウェア） ● ディペンダビリティ確保技術（特に安全性やセキュリティのリスク分析，設計，検証） ● 実世界データ基盤技術（ダイナミックマップ，センサデータ処理）
	５Ｄ	教授　石原　亨 准教授　増田　豊	● 新原理コンピューティングアーキテクチャ ● 高効率コンピューティング技術 ● コンピュータハードウェアの設計技術
	５Ｅ	教授　本田晋也 准教授　山田峻也	● 組込み/IoT システム向けソフトウェア及び設計技術 ● 組込みシステム向けコンピュータアーキテクチャ ● ハードウェア・ソフトウェア協調設計 ● センサデータ処理，インフラ協調型自動運転支援技術
		客員准教授　大谷寿賀子†	● 組込み向けプロセッサ・アーキテクチャ ● アプリケーション・ソフトウェアプラットフォーム
ソフトウェア論	５Ｆ	准教授　中澤巧爾 助教　井上裕介	● 理論理学を用いたソフトウェア検証（モデル検査，型理論，プログラム論理） ● 計算のモデル（プログラム意味論，ラムダ計算） ● 形式言語理論（半群・普遍代数を用いた解析，重み付きモデル）
	５Ｇ	教授　楫　勇一 助教　濱口　毅	● 情報理論とその応用（情報記録や通信のための符号化方式） ● 情報セキュリティ（要素技術の応用，省電力・モバイルセキュリティ） ● ソフトウェア基礎理論（自動検証技術）
	５Ｈ	准教授　森崎修司	● ソフトウェア工学(ソフトウェアメトリクス，リポジトリマイニング) ● ソフトウェア品質保証(コードレビュー／ドキュメントレビュー手法，サイバーフィジカルギャップ検出，アジリティ／エボルバビリティ最適化手法)

情報ネットワークシステム論	５Ｉ	教授　片桐孝洋 准教授　星野哲也 助教　椋木大地	● 高性能計算技術（スーパーコンピュータ活用，大規模並列数値計算法，ソフトウェア自動チューニング，GPU コンピューティング，機械学習応用） ● 大規模数値計算データの可視化技術 ● 数値計算系応用ソフトウェア開発・利用高度化
	５Ｊ	准教授　嶋田　創	● 情報セキュリティ（セキュリティナレッジ構築，セキュリティ教育など） ● ネットワークセキュリティ（マルウェアや悪性通信の検知と対応の自動化など） ● 基盤ネットワーク運用（サービス維持管理の自動化など）

＊　附属組込みシステム研究センター

＊＊　未来社会創造機構

＊＊＊ 附属価値創造教育研究センター

† 附属価値創造教育研究センター・連携講座：ルネサス　エレクトロニクス株式会社

知能システム学専攻　教員と研究内容

入学後に指導を受けることができる教員とその研究内容を下表に示す。

志望する研究グループの英数字コード(6A～6L)を「志願理由書」の「第1志望」から「第10志望」のすべての欄に記入すること(教員名を記入してはならない)。第1志望の指導教員には，出願前に入学後の研究・教育等について問い合わせることを強く推奨する。なお，試験に合格した場合でも教育上の配慮により，希望とは異なる研究グループに配属される可能性がある。

Enter the alphanumeric code (6A～6L) of the research group to which you wish to apply in all fields from "第1志望 (1st choice)" to "第10志望 (10th choice)" in the "志願理由書 (Letter of Intent)" (Do not enter the name of the faculty member). It is strongly recommended that you contact the faculty member of your 1st choice research group before applying, to inquire about research and educational activities after enrollment. Even if you pass the exam, you may be assigned to a research group other than your preferred due to educational considerations.

各教員／研究グループの連絡先は，研究科Webサイトの「教員一覧」
(https://www.i.nagoya-u.ac.jp/prof/study_a07/ ※右上のQRコードからもアクセス可能)を参照すること。

講座	研究グループコード	担当教員	研究内容
基盤知能情報学	6A	教　授 井手一郎 准教授 駒水孝裕‡	実世界コンテンツ(例:ニュース，食・健康，スポーツ，観光・旅行，漫画・アニメ)を対象に，その分析・生成に関する応用研究に取り組む。また，そのために必要なパターン認識やセマンティックギャップに関する基礎研究に取り組む。その際に，以下の方法論で取り組むことが特徴である。 【コンテンツ科学】実データに基づくドメイン知識の構築・統合と，人間の能力・行動のモデル化 【マルチメディア情報処理】画像・映像を中心に，言語・音声・SNS など異種メディアの統合・活用
	6B	准教授 出口大輔	【日常生活支援のための人理解】 監視カメラや赤外線カメラなどで撮影した低品質な動画像や，学習データの乏しい動画像から人物の属性や姿勢，行動などを認識する研究を行う。そして，これらの要素技術を活かした宅内見守りシステムなどの応用技術について研究に取り組む。 【高度運転支援のための環境理解】 自動車に搭載されたカメラやセンサを用いることにより，自車位置推定，障害物検出，地図構築といった環境理解に関する研究を行う。そして，これらの要素技術を活かした高度運転支援システムや自動運転システムといった応用技術について研究に取り組む。
	6B'	客員准教授 伊藤誠悟 (連携分:豊田中央研究所)	【スマート物流のための環境理解】 環境やロボットに搭載された LiDAR やカメラ等のセンサを用いることにより，人・モノの位置推定，障害物検出，地図構築，経路生成といった環境理解に関する研究を行う。これらの要素技術を活かし，スマート物流を実現するための応用技術について研究に取り組む。
	6C	教　授 藤井慶輔††	人間や動物，人工エージェントなど実世界の多自由度な行動の映像や時空間データから，巧みな動きや柔軟な協調を認識・予測・評価する機械学習などの情報処理技術に関する研究に取り組む。スポーツなどの人間行動を含む実世界の行動や性質を理解・再現するとともに，データから新たな知見や仮説を導き，人間と機械が調和・協調して能力を拡張するための情報基盤技術の研究を行う。 【映像・マルチモーダル情報処理】画像処理や視覚言語モデル等を用いた人物・物体・行動認識，物体追跡，イベント理解 【時空間データ解析・科学支援 AI】数理モデル，機械学習，大規模言語モデル等を用いた行動予測・評価，データ分析，仮説生成・検証支援 【シミュレーション・自律システム】数理モデルや強化学習による仮想環境・実データのシミュレーション，人工エージェントの行動学習・意思決定

基盤 知能 情報学	6D	教　授 戸田智基††† 助　教 HUANG Wen-Chin	様々な音信号を対象とした音メディア情報処理に関する研究を行う。音声コミュニケーション支援，学習支援，創作支援，見守り支援，障碍者支援などを対象として，音声情報処理，音楽情報処理，音環境情報処理を軸に，物理的な制約を超えて人の身体機能や認知機能を拡張するための基盤技術および応用技術の研究に取り組む。 【音声情報処理】 音声分析・認識・翻訳・変換・合成，意図理解・対話制御 【音楽情報処理】 楽音分析・分離・加工・合成，歌声分析・変換・合成 【音環境情報処理】 音響イベント検出・記号化，音環境理解，動作音解析
	6D’	客員准教授 俵　直弘 （連携分：NTT 研究所）	人と人，人と機械のコミュニケーション支援を目的として，多人数会話音声や子ども音声など，多様な音声・言語の分析・理解に関する研究を行う。機械学習・深層学習と音声信号処理に基づき，実環境の会話データを対象とした音声・言語処理の基盤技術を研究し，多人数会話理解や知的音声インタフェースの実現を目指す。 【多人数会話理解】会話状況分析，多人数会話音声認識，話者ダイアリゼーション 【話者モデリング】話者認識・属性推定，子ども音声や非母語話者音声への対応 【音響シーン解析】同時発話，雑音環境下での音声信号処理
システム 知能 情報学	6E	教　授 石川佳治 助　教 杉浦健人	【データベース・データ工学／データマイニング／e-サイエンス】 情報社会において日々生み出される大量の情報を有効に活用し，新たな付加価値を生み出すためのデータベース・データ工学の要素技術及び応用技術について，システム技術やアルゴリズムなどの立場から研究を行う。また，データマイニング，e-サイエンス，ウェブ情報処理などの関連する領域の研究にも取り組む。
	6F	准教授 工藤博章	【生体情報処理】 生体での情報処理の解析（視覚特性と生体信号の分析），コンピュータビジョン（人間の多様な感性に対応する柔軟な画像認識），コンピュータオーディション（音源定位，音源分離，音源識別），これらの応用として，視聴覚機能の代替・支援，情報技術を活用した材料開発などの研究を行う。
	6G	教　授 森　健策 准教授 小田昌宏††	画像認識・理解／視覚言語モデル・生成 AI／3 次元ビジョン・グラフィックス／拡張現実感・ナビゲーション／ロボットビジョン・知的制御／大規模 GPU 計算】 人工知能（AI）を核として，「見る・理解する・行動する」知的システムの実現を目指し，画像認識，コンピュータビジョン，コンピュータグラフィックス，ロボティクスにまたがる研究に取り組む。深層学習による画像・映像の認識と解析，視覚言語モデル（VLM）や大規模言語モデルを用いた画像の意味理解と言語による説明の生成，映像からの 3 次元再構成や世界モデル・デジタルツイン，拡張現実感による情報提示，ロボットの知的制御などの基盤技術を研究する。スーパーコンピュータも活用した大規模 GPU 計算により，大規模データを用いた AI モデルの学習や高速・高精細な 3 次元処理を実現する。これらの技術を，CT・内視鏡画像による診断支援，手術映像解析，手術ナビゲーション，医療ロボットといった医療分野に応用する。さらに、病院・企業・海外の研究機関と連携し，実社会で役立つ AI の研究も併せて推進する。
	6H	准教授 笹野遼平†	【自然言語処理／計算言語学】 自然言語処理を利用した価値創造のための研究に取り組む。大規模コーパスからの知識獲得，語や文の埋め込みモデルの高度化，文献からの情報抽出など，多様化する自然言語処理の可能性を探究するとともに，関連する分野の手法を取り入れた新たな応用について研究する。また，大規模コーパスや大規模言語モデルを用いた言語の分析など，計算言語学の研究にも取り組む。
	6I	教　授　是津耕司†	【AI オーケストレーション】 異なる種類のデータやタスクを扱う AI モデルを必要に応じて組み合わせ性能を向上・進化させるモデル連携技術や，連合学習技術，様々なデータから効用の高い組み合わせを発見するデータウェアハウス技術，分散したモデルやデータ，計算資源を安全・効率的に活用する AI 開発フレームワーク，及びこれらを活用したスマートモビリティ等の具体的な応用の研究開発に取り組んでいる。

フィールド 知能 情報学	6J	講　師 榎堀　優	【ユビキタス・ウェアラブル・IoT／医療看護支援／コミュニケーション支援／体験・感性共有・技能解析・指導支援】部屋や家具，衣類や道具などの身近な機器が知性を持って様々な分野で人をサポートする世界を目指し，ユビキタス・ウェアラブル・IoT システムなどについて研究する。それらと人との相互作用やコンピュータによる人間感性の獲得などについても研究する。目標の実現に向けて，新しいデバイスを構築することなども手がける。
	6K	教　授 東中竜一郎 助　教 GUO Ao	【対話システム／ヒューマンコンピュータインタラクション／ロボット／会話分析／自然言語処理】人間と会話をするコンピュータである対話システムの研究を行う。対話システムを実際に構築することで，人間はどうして対話ができるのか，対話の基本原理は何なのか，等について研究を行う。また，対話システムを構築するだけでなく，人間同士の対話を分析することで，様々な観点から対話についての知見を得る。さらに，構築した対話システムを社会実装することで，世の中で実際に役に立つ対話システムの研究を行う。
	6L	教　授 松原茂樹†† 助　教 伊藤滉一朗	学術コミュニケーション（講演，執筆，学習，出版，発表，探索，記録などの教育・研究活動）を支える知能システムに関わる研究を，自然言語処理を基盤に展開する。 【言語理解と推論】知識の獲得と利用，情報の価値化，構文・意味解析，要約生成 【会話・談話理解】会話コンテンツ，談話分析・生成，音声言語処理，言語認知，同時通訳 【デジタルライブラリ】オープンサイエンス，データリポジトリ，論文マイニング，メタデータ生成 【教育・学習支援】学習支援，作文支援，文校正，講義コンテンツ，講演アーカイブ

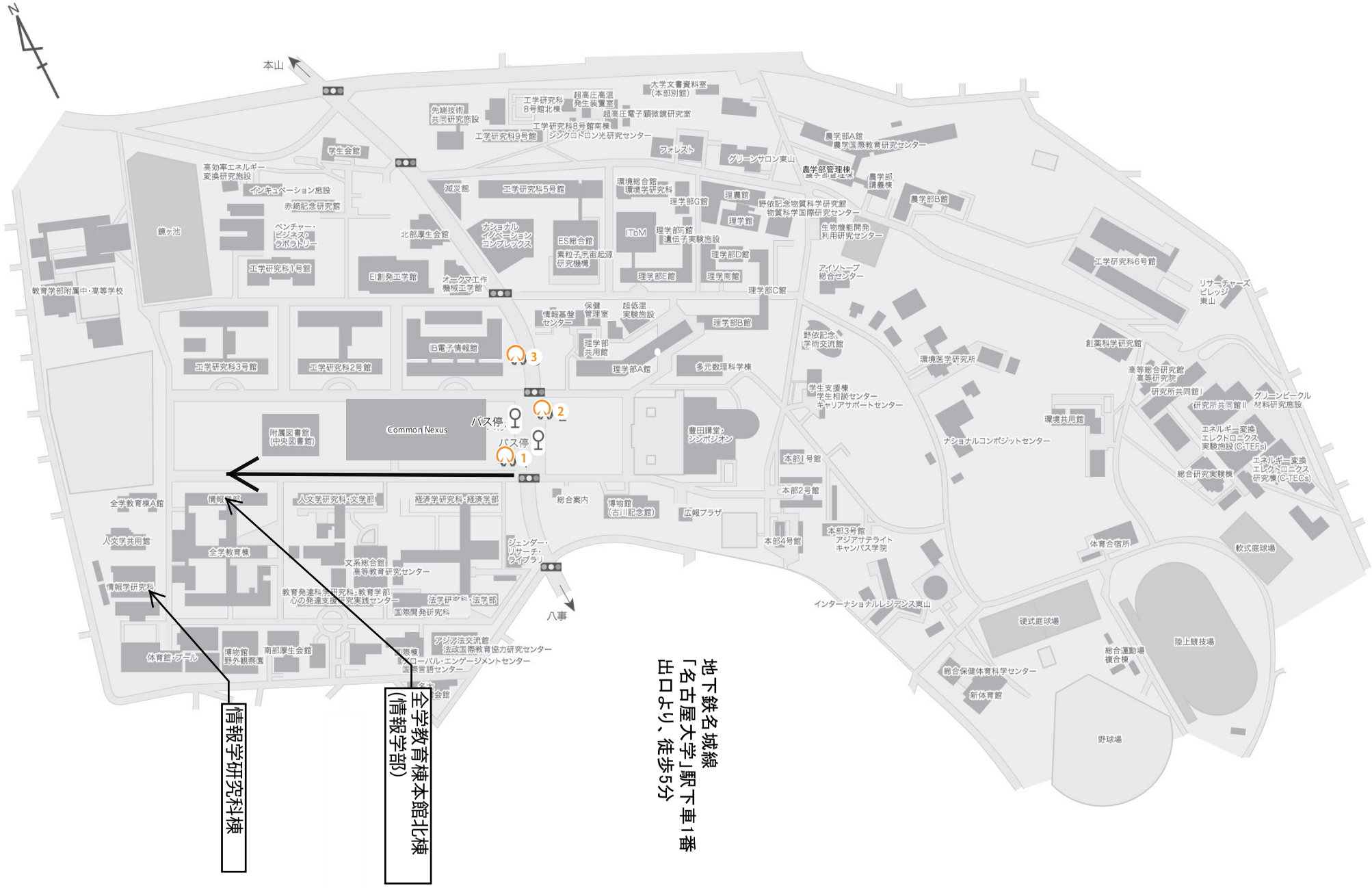
†:価値創造教育研究センター　††:情報基盤センター　†††:未来社会創造機構　‡:数理・データ科学・人工知能教育研究センター

参考情報:

・過去の入試データ:https://www.i.nagoya-u.ac.jp/gs/entranceexamination/past_exam/

・過去の試験問題:　https://www.i.nagoya-u.ac.jp/gs/entranceexamination/exam_q/

名古屋大学東山地区　試験場案内図



令和9年度（令和9年2月実施）
名古屋大学大学院情報学研究科
博士前期課程入学試験

受験番号 ※

※印欄は記入しない。

出願書類チェック表

志望専攻 （〇で囲む）	数理情報学専攻　複雑系科学専攻　社会情報学専攻　心理･認知科学専攻　情報システム学専攻　知能システム学専攻
フリガナ	
氏名	

･以下の順番（志願票が一番上）になるよう出願書類を<u>このチェック表とともに郵送</u>してください。
･提出する書類の「出願者チェック欄」に，✓印を記入してください。
･提出が不要な書類のチェック欄には，斜線「／」を引いてください。

提出書類	対象者	ダウンロード先	自分で用意	出願者チェック欄	大学チェック欄
名古屋大学大学院　志願票 （インターネット出願システムから，A4サイズで片面カラー印刷したもの）	全員	〇インターネット出願システム			
写真票 （インターネット出願システムから，A4サイズで片面カラー印刷したもの）	全員	〇インターネット出願システム			
志願理由書【様式1】 （志望教員名又は希望する研究グループの英字コードを必ず記載すること）	全員	〇募集要項			
履歴書【様式2】 （高等学校等の卒業から2027年3月まで空白期間がないよう記入すること。研究生や予備校等の在籍事項についても記載すること。外国において学校教育を受けた者については初等教育（小学校）の入学時から全てを記入すること。所属先がなく自宅で勉強している（していた）場合についても記入すること）	全員	〇募集要項			
卒業（見込）証明書、学位（取得見込）証明書（コピー不可）	全員		〇		
成績証明書（コピー不可）	全員		〇		
TOEIC L&R公開テスト，TOEFL-iBT，IELTSまたはDuolingoの成績通知書（コピーを提出する場合は自筆にて「これは原本の複写に相違ありません」と記入） 後日提出する場合は，右のチェック欄に「後日」と記入。TOEIC IPテスト及びTOEFL ITPテストは対象外。	全員		〇		
オンライン試験に関する誓約書【別紙1】	全員	〇募集要項			
類型該当性の自己申告書【別紙2】フローチャートにもチェックすること （類型①～③に該当する方はその根拠を記載し、海外機関の奨学金の受給通知等も提出）	全員	〇募集要項			
その他卒業論文等，本人の研究能力を示す資料（提出は任意）	該当者		〇		
在留カードのコピー（両面）等 （日本在住の外国人は在留ｶｰﾄﾞのｺﾋﾟｰ等，日本国外在住の外国人はﾊﾟｽﾎﾟｰﾄの写し等）	外国人全員		〇		
受験承認書（在職中で入学後も引き続き在職する者のみ） （入学後退職する予定の場合は，その旨記した申出書）	該当者		〇		
（外国人留学生のみ）日本語能力試験の合格証又は成績通知書 （提出は任意。コピーを提出する場合は自筆にて「これは原本の複写に相違ありません」と記入）	該当者		〇		
国費留学生の証明書 （学内からの出願者は提出不要）	該当者		〇		

最終チェック			
	志望指導教員に出事前に問い合わせましたか？ （社会情報学専攻志願者はコンタクトした第一希望教員名を右欄に記載ください。）		
	ダウンロードした様式は，A4判用紙に片面印刷されていますか？		
	記入もれがないか，すべての書類を確認しましたか？		

大学事務使用欄

【様式１】

志　願　理　由　書

氏　　名		※受験番号	

志望専攻名	第 1 志望	第 2 志望	第 3 志望	第 4 志望	第 5 志望
専攻					
	第 6 志望	第 7 志望	第 8 志望	第 9 志望	第 10 志望

記入に際しては，志望専攻の「教員と研究内容」の指示に従って記入すること。

第 1 志望から第 10 志望には，社会情報学専攻志望者は志望する講座名を，情報システム学専攻及び知能システム学専攻志望者は志望する研究グループの英数字コードを記入すること。In 第 1 志望 (1st choice) to 第 10 志望 (10th choice), applicants for the Department of Social Informatics should enter the names of the desired units. Meanwhile, applicants for the Department of Computing and Software Systems or the Department of Intelligent Systems should enter the alphanumeric codes of the desired research groups.

○志願理由を記入すること。(入学する目的、入学後に特に学修したい分野及び専攻・講座を選んだ理由などについて記入すること。)

【 様式2 】

令和9年度（令和9年2月実施）
名古屋大学大学院情報学研究科
博士前期課程

履歴書

受験番号
※

1.高等学校等の入学から2027年3月まで空白期間がないよう記入すること。予備校，日本語学校及び研究生等の在籍事項や，所属先がなく，自宅で勉強をしている（していた）場合についても「その他」の欄に記載すること。
ただし、外国において学校教育を受けた者については小学校の入学時から全てを記入すること。
2.学歴・職歴問わず、名称等は省略せず正確に記入すること。
3.休学期間がある場合は、特記事項に記入すること。

フリガナ（Furigana）				性別
氏名	（西暦）　　年　　月　　日生			男・女
英字氏名 （日本人も記入必須）	姓（SURNAME）	名（First name）	（Middle name）	

学歴　※2027年3月までの予定を含み，空白期間がないよう記入すること。
※外国において学校教育を受けた者のみ小学校から記入すること。

区分	学校名	入学及び卒業年月	正規の修学年数
小学校	小学校	年　月　入学 年　月　卒業	年
中学校	中学校	年　月　入学 年　月　卒業	年
高校 高等専門学校	高校 高等専門学校	年　月　入学 年　月　卒業	年
大学	大学 学部 学科	年　月　入学 年　月　卒業 ・ 卒業見込	年
大学院	大学大学院 研究科 専攻 課程	年　月　入学 年　月　修了・修了見込・ その他 （　　）	年
研究生	（大学名を記入） 大学研究生	年　月　から 年　月　まで	
予備校，日本語学校等	（学校名を記入）	年　月　から 年　月　まで	
その他	（所属先がなく，自宅で勉強をしていた場合は「自宅で受験勉強」などと記入）	年　月　から 年　月　まで	
特記事項 （学歴で休学期間等あれば記入）			

職歴・研究歴（最近のものから記入）※在職者で入学後退職する予定の場合は，退職する旨余白に記載すること

勤務先（会社名）及び所在地	勤務期間	所属部課	役職名	職務内容
	年　月から 年　月まで			
	年　月から 年　月まで			
	年　月から 年　月まで			
	年　月から 年　月まで			
	年　月から 年　月まで			

【注】 ※印欄は記入しないでください。

【様式３】

[前期課程出願資格(８)による個別審査用]

令和　　年　　月　　日

出願資格(８)による事前審査申請書

名古屋大学大学院情報学研究科長　殿

名古屋大学大学院情報学研究科博士前期課程 ＿＿＿＿＿＿ 専攻に出願したいので、出願資格（８）により事前審査を受けたく、関係書類を添えて申請いたします。

（志願者）氏　　名（フリガナ） ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

現職等（所属機関・部署・職名等，学生の場合は大学名・身分）

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

連絡先住所 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

電話番号 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

携帯電話 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

メールアドレス ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

【様式４】

［前期課程出願資格（９）による審査用］

令和　　年　　月　　日

出願資格(9)による個別審査申請書

名古屋大学大学院情報学研究科長　殿

名古屋大学大学院情報学研究科博士前期課程 ＿＿＿＿＿＿＿＿ 専攻に出願したいので、出願資格（９）により個別審査を受けたく、関係書類を添えて申請いたします。

（志願者）氏　　名（フリガナ） ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

現職等（所属機関・部署・職名等，学生の場合は大学名・身分）

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

連絡先住所 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

電話番号 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

携帯電話 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

メールアドレス ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

【様式5】

［前期課程出願資格（９）による審査用］

個別審査シート

氏名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

大学を卒業した者と同等以上の学力があるという理由を記入してください。

【様式6】

［前期課程出願資格（９）による審査用］

研究職／専門職従事証明書

令和　　年　　月　　日

証明者

［所属・職名・氏名］

＿＿＿

【別紙 1】

名古屋大学大学院情報学研究科長　殿

誓 約 書

名古屋大学大学院情報学研究科博士前期課程入学試験のオンライン口述試験・口頭試問を受験するに当たり、下記事項を順守することを誓約いたします。

・ 自己の責任において、ビデオ通話が可能な機器（カメラ付きパソコン、タブレット、スマートフォン等）を用意するとともに、面接を受けることを予定している場所（自宅、通学する教育機関等の個室）で、良好かつ安定的なインターネット環境を確保すること。

・ 面接を受ける場所（以下「試験室」という。）には本人以外入室せず、試験開始から終了まで一人であること。また、試験室は静寂な状態を保つよう努めること。

・ オンライン口述試験・口頭試問に使用する以外の通信機器は、電源を切り、試験室に持ち込まないこと。場所の都合上やむを得ず持ち込まざるを得ない場合は、試験開始から試験終了まで当該通信機器に触れないこと。

・ 試験中に撮影、録画、録音を行わないこと、及びそれらの画像、映像、音声データをＳＮＳ等で配信しないこと。

・ 試験実施に際して知り得た情報を、合格発表まで口外しないこと。

年　　月　　日

志望専攻名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

氏名（自署）＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

【別紙２】

類型該当性の自己申告書

名古屋大学に教職員として応募する方、学生として出願する方には「外国為替及び外国貿易法」に基づく「みなし輸出」における管理対象であるかどうかの自己申告をお願いさせていただいております。

ご自身の立場について右記フローチャートにチェックの上、下記該当の項目にチェックを入れて、応募および出願の書類と一緒にご提出ください。

部局　情報学研究科

氏名

□類型①に該当　□類型②に該当　□類型③に該当　□いずれにも該当しない

類型①～③に該当する方は下記にその根拠を記載し、エビデンスを提出してください

該当性の根拠

例：○○機関に雇用されている、○○から資金提供・奨学金を取得している、もしくは予定

（　　）

エビデンス資料

例：海外機関の雇用証明書(雇用通知書・契約書)、海外機関からの資金提供通知書(個人)、奨学金の受給通知もしくは申請書など

（　　）

※類型該当性の判断について不明な場合は下記にお問合せください。

名古屋大学学術研究・産学官連携推進本部　安全保障輸出管理事務局

E-mail：anzen@aip.nagoya-u.ac.jp　TEL：052-747-6702

類型該当性判断のフローチャート（チェックしてください）

